

研究・調査報告書

報告書番号	担当
59	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol intake and pancreatic cancer risk: a pooled analysis of fourteen cohort studies. 飲酒と膵臓癌リスク： 14 コホート研究の統合分析	
執筆者	
Genkinger JM, Spiegelman D, Anderson KE, Bergkvist L, Bernstein L, van den Brandt PA, et al.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Cancer Epidemiol Biomarkers Prev 2009;18(3):765-76	
キーワード	
要旨	
<p>背景： 膵臓癌病因に関わる危険因子はほとんどない。アルコールは発癌を促進すると理論付けられている。しかし、疫学的研究は飲酒の膵臓癌リスクに関連に関し一致した結果を報告していない。</p> <p>方法： 14 の前向きコホート研究からの一次データの統合分析を行なった。研究サンプルは、2,187 の膵臓癌ケースが確認された 862,664 人の個人から構成された。 研究特有の相対リスクおよび 95% の信頼区間はコックス比例ハザードモデルを使用して、算出され、次にランダム結果モデルを使用して統合した。</p> <p>結果： 膵臓癌リスクと弱い正の関連が、飲酒において観察された(非飲酒者に対する 1 日 30g 以上のアルコール摂取者の、統合された多変量調整後相対リスク：1.22; 95% の信頼区間：1.03-1.45 ; 研究間相違検定 P=0.80)。この比較において正の関連は女性のみ統計的に有意であったが、性別の交互作用は統計的に有意ではなかった (P=0.19) 。分析を膵臓癌のケースに限った場合、飲酒に対してより少し強い結果が観察された。非飲酒者に対する 1 日 5g 以上のアルコール摂取者を比較するとワイン、ビール、および蒸留酒では統計的に有意な関連は観察されなかった。太り過ぎや肥満者と比較して標準体重者では、飲酒と膵臓癌リスクとの間により強い正の関連が観察された(交互作用 P=0.01)。</p> <p>議論： 今回の所見は、1 日当たり 30g 以上のアルコール摂取が膵臓癌リスクを中程度増加させるとするものと一致している。</p>	